

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	令和6年3月1日
タイトル	「未来へつなごう！ふるさとの水土里子ども絵画展2023」環境大臣賞受賞者取材
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

「未来へつなごう！ふるさとの水土里子ども絵画展2023」で環境大臣賞を受賞された学校法人杉原学園松永幼稚園年長の池本沙由ちゃんを取材しました。

「未来へつなごう！ふるさとの水土里子ども絵画展2023」には、全国から3,021点の応募があり、その中から入賞31作品、地域団体賞52作品、入選142作品が受賞されました。

水土里ネット福山からは4校から237点を応募し、その中から環境大臣賞1作品、入選6作品、地域団体賞2作品を受賞し、佳作16作品も選ばれ東京都美術館に展示されました。

令和6年2月17日（土）、取材は松永幼稚園の沙由ちゃんの教室で、ご両親と幼稚園の園長先生と沙由ちゃんの普段の様子をよくご存知の先生に同席していただきお話を伺いました。



題名「しぜんのおきもの」

教室に飾ってある沙由ちゃんが描いた節分の絵やお雛様の作品など見ながら話を聞きました。

お母さんにお聞きすると、沙由ちゃんは年長になってからよく絵を描くようになったそうです。受賞した絵はトンボやカエルが生き生きと描かれていますが、実際は虫やカエルが怖くて触れないそうです。

でも園庭や農業体験でいろんな生き物や虫を見ることで作品に繋がったのではないかと先生がお話してくださいました。

また、コロナ禍で農業体験の取材ができない状況ですが、松永幼稚園では希望者で田植えや稲刈りの農業体験をされたそうで、沙由ちゃんもお父さんと参加されたそうです。

普段は泥だらけになる機会がないそうですが、田植えの時は泥だらけになり「土がヌルヌルしてたけど気持ち良かった。」と話してくれました。貴重な体験だったようです。

ご両親は今回の受賞を大変喜んでくださり、東京都美術館へも家族で見にいかれたそうです。

春から小学生になっても絵を描きたいとお話してくれる笑顔を見て、これからも子ども絵画展に携わっていきたいと思いました。

水土里ネット福山は、引き続き21世紀土地改良区創造運動に取り組んでまいります。